

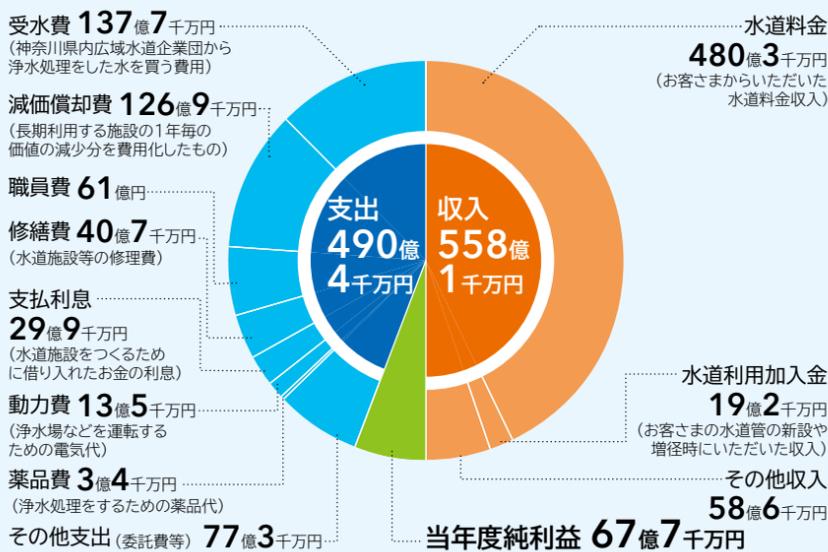
# 平成28年度決算のご報告

平成28年度の収支状況は、水道料金収入が減収となりましたが、企業債残高の減少に努めるなどの様々なコスト削減を行った結果、黒字を確保することができました。

## 収益的収支

※額はすべて税抜き

### 水道水をつくり、ご家庭にお届けするための経費とその財源



#### ■ 収益的支出

490億4千万円 (前年度比94.6%)

神奈川県内広域水道企業団へ支払う受水費の改定による支出の減少や、企業債残高の減少により支払利息が減少したことから、前年度と比較して約27億8,442万円の減少となりました。

#### ■ 収益的収入

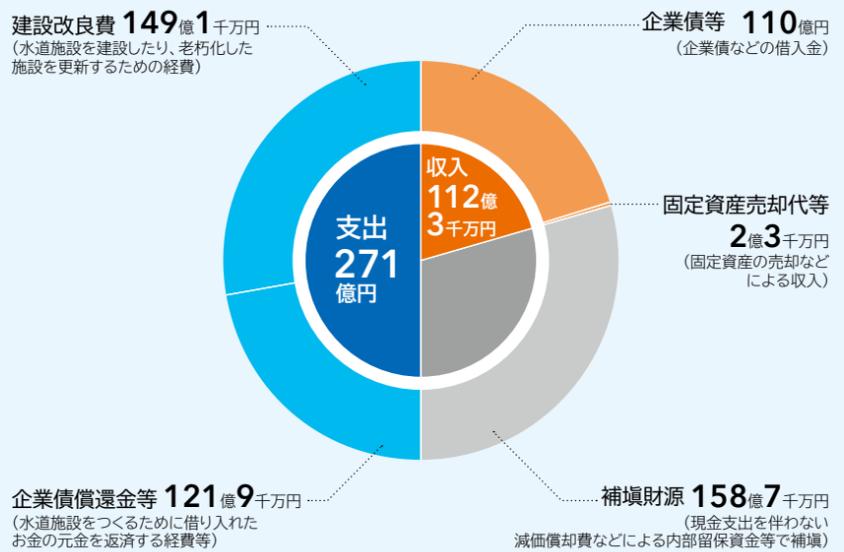
558億1千万円 (前年度比99.6%)

収入の大部分を占める水道料金収入が減収となるなど、前年度と比較して約2億4,470万円の減少となりました。

## 資本的収支

※額はすべて税抜き

### 水道施設をつくるために要する経費とその財源



#### ■ 資本的支出

271億円 (前年度比98.0%)

「災害に強い水道づくり」や「より安全でおいしい水の供給」に向けて、老朽管の更新や、水道管の耐震化を進めました。

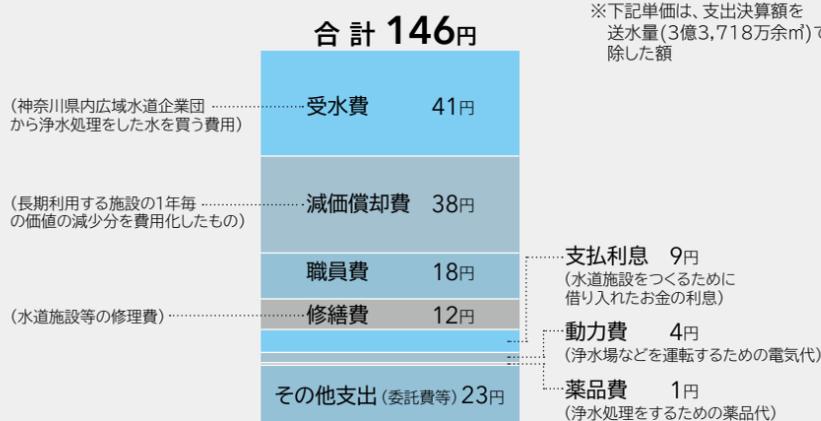
#### ■ 資本的収入

112億3千万円 (前年度比110.2%)

地震等の災害対策や老朽管の更新等の事業を実施するにあたり、財源として企業債の借入などを行いました。

## 参考 水道水1m<sup>3</sup>に係る費用の内訳

※額はすべて税抜き  
※下記単価は、支出決算額を送水量(3億3,718万余m<sup>3</sup>)で除した額



## 参考 水道水1m<sup>3</sup>あたりの収入の内訳

※額はすべて税抜き  
※下記単価は、収入決算額を送水量(3億3,718万余m<sup>3</sup>)で除した額



これから人々の生活に欠くことのできない水道水の安定供給のため計画的な更新に努めてまいります。



昭和16年に布設された水道管

最近では、昭和46年以前に布設された水道管の漏水事故により、家屋への被害も発生したこともあり、この強度的に弱い水道管を老朽管と位置づけて更新を進めています。

その中でもとりわけ、高度経済成長期の急激な水需要の増加を背景として整備された膨大な水道管が更新の時期を迎えようとしています。

6町を給水区域として、給水戸数約131万戸、給水人口約281万人へ給水を行っています。

これまで水需要の増加に対応しながら、水道施設の拡張事業に取り組んできた結果、現在では、水道管の総延長が約9,200kmにのぼり、これは横浜から東に向かうと太平洋を超えてアメリカのグランドキャニオンまでの距離に相当します。

## 老朽管の更新①

22世紀に つなぐ インフラをめぐして

# 水道 100歳 時代

▲写真：水道管を運ぶ様子(昭和初期、湘南地方)

▲写真：水道管を運ぶ様子(昭和初期、湘南地方)